

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272600972		
法人名	社会福祉法人八千代美香会		
事業所名	グループホーム美乃里		
所在地	千葉県八千代市村上573-5		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

八千代市、千葉市、船橋市、習志野市で特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、居宅介護支援事業所等を運営する社会福祉法人のグループホームです。当ホームの理念は『居心地の良い家を作ろう』コロナ禍で見えない圧力と共存しながら、まさに入居者の皆様中心の毎日で職員共々少しずつ新しい形へと成長しております。居室は馴染みの家具を持ち込んでいただき、居心地の良いやさしい空間で過ごしていただいております。また地域に開放しているホールを活用し、ご入居者の皆様との向き合い方に力を入れております。また地域に開放しているホールを活用し、ご入居者の皆様、ご家族の皆様に向けても様々な行事を企画、実施を再開できるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の良い点として
 ①「居心地の良い家を作ろう」という理念の実践に向けて来季には施設の大改修を行って環境の整備をする。また、人事も一新して新しいスタートを切り、分業制により担当を決めて役割と誇りを持って働ける環境づくりを行う。
 ②利用者を一人の人として尊厳を守る事を大事にしている。また、利用者が生き生きと自分らしく個々のペースで生活をし、表情が良く満足している生活を送れるようにしている。③職員は利用者の意思を尊重し、同じ方向性を持って個々に合ったサービスにゆとりを持って取り組んでいる。また、業務優先でなく利用者を優先し、利用者の行動や希望を妨げない様にどうしたら出来るかを考え、チームワークが良く言いたい事が云える関係性がある、④管理者は、コロナで出来なかったことが多く、外出行事、外食、夢プラン等を行って利用者の記憶に残り生活が楽しいものになる様にチャレンジする事としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「居心地の良い家を作ろう」を理念としています。職員それぞれの解釈は異なりますが、個々の思いや理想をできる限り尊重して取り組んでおります。	「居心地の良い家を作ろう」という理念の実践に向けて来季に施設の大改修を行い、人事も一新して新しいスタートを切る事としている。職員は利用者一人ひとりを理解し同じ方向性を持って個々に合ったサービスをゆとりを持って取り組んでいる。また、管理者は家族とのコミュニケーションを図り、職員との情報の懸け橋として役割を果たしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、地域との交流に関しては消極的であった。感染状況を見ての判断と予想されるが、気持ちだけでも積極的でいたい。また自身も地域資源の1つとしての認識に努めたい。	コロナ禍で町会行事や職場体験学習・保育園との交流は中止となっているので再開が期待されます。ボランティアの受け入れが始まり傾聴活動が行われている。利用者はホーム周辺の散歩に出かけ近所の人に挨拶をして交流している。来季はコロナも緩和される事から外出行事の検討が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内保育園との交流や職場体験、ボランティアを受け入れ、認知症の方の理解や支援の方法に努めていたが、感染状況の拡大もあり有効的な実践が困難であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が困難な環境の為、書面開催となっている現状。ご意見は電話などで頂いており運営に反映できるよう努めております。今年も感染状況にもよりますが、対策をし開催できるよう検討します。	運営推進会議はコロナ禍で書面開催により開催されていたが、4月より参加型での開催となる。報告内容は「入居者状況・事故報告・受診状況・活動内容等」となっている。議事録を作成して相談員・地域包括・民生委員・町会長に送付して取り組みの理解に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行事に参加いただいておりますが残念ながらコロナ禍もあり、施設だけの小規模開催となっております。	市担当者とは生活状況と事故報告や法解釈等の相談をし、メールでの防災や感染症対策とコロナ発生の変化時には報告をして協力している。また、市相談員が訪問して利用者面談が行われ管理者に報告が行われている。グループホーム部会や村上市会が開催され情報交換をして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や毎月のユニット会議で周知徹底を図っています。どんな些細な案件でも該当するのかもしれないかを話合い個々のスキルアップに努めております。	施設合同の身体拘束委員会は毎月開催され医療面や異なる視点でのアドバイスを対応に活かしている。年2回内部研修を義務化して虐待等の意識を高め身体拘束は行われていないが、リスクはある事を認識している。ユニット会議では何気ない言葉や高圧的な言葉遣いは背景を考え、ゆとりを持つことを大事にしている。事故報告時にはカンファレンスを開催して何故発生したかの検討をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、内部研修、ユニット会議で周知徹底、情報の共有を図っています。悪意がなくても何気ないことが虐待につながることを意識して業務についていただくよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で該当者はないが、制度についての理解は定期的に設けていき、ケースとして受け入れた場合や支援の在り方に努めて参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約内容の改定時等の際は、ご納得いただけるよう説明をさせていただきます。またご家族のご不安や疑問時には誠意をもって耳を傾け、ご理解いただけるように努めていきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の支援を通じてご入居者のニーズの把握に努め個別ケアに繋げております。ご家族のニーズに関しては面会時や電話等で伺い、職員間で共有しケアの向上に努めております。	コロナ禍、家族の面会は制限をして居室で行われ、職員は外から見守り利用者状況の説明と要望を聞いている。また、変化時には電話による報告が行われている。法人の広報紙や「みのり便り」を送付し行事等の写真とコメントを入れて知らせている。また、担当職員から月間報告書を送付し「ケアプランの取り組みと評価・健康状態・日常の様子」の情報提供をしている。利用者の状況は介護日誌や申し送りをしてニーズの把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が当たり前権利を活用して各職務についていただけるよう個人面接や会議等で要望を伺っております。またハードやソフトに関し優先順位を定め、できるだけ反映できるよう努めております。	朝夕の申し送り時に利用者の気づきや変化、ユニット会議では連絡事項や機器の補充等活発な意見交換と要望が出ている。各委員会活動は他施設・多業種が参加して情報交換と責任感が醸成されている。管理者は声掛けをして1:1で話をし個人面談を予定して関係づくりを心がけている。また、リーダーとの関係性と育成に力を入れ、担当制の役割をきめ誇りを持って働ける環境づくりに取り組んでいる。	利用者の希望ややりたい事を叶える夢プランの検討が行われている。実現に向けての取り組みが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスシートを基本に公立公平に勤務実績、努力等を評価しています。また上記同様、現場で誇りを持って勤務できるよう労働環境の整備にも努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月各委員会が企画、開催される研修があり、個人レベルに適した研修や資格取得の提案に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研修で他施設間の交流、市内のグループホーム部会は定期的開催されており情報の共有、ネットワークの構築ができています。オンラインでの開催が日常的になってきてしまっているが対面での交流も感染状況を見ながら判断していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や家族関係、背景を基本にご本人のニーズ、ご家族のニーズの把握に努め、心豊かに生活していただけるような関係作りを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り当ホームの見学をいただいております。雰囲気や現場のスタッフを直接見ていただくことで判断いただくことを基本としています。ニーズや要望に関してはできること、できないことを丁寧に説明しご理解をいただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様、空き状況やご要望によってはマッチングしないことも多々ある為、他サービスの説明や窓口の支援をさせて頂くことに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々変化していく状況、環境の中、大切なことの一つだと認識しております。しかし残念ながらそれが叶わぬ方もいらっしゃるのではとどちらにとっても公立公平な支援に留意しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	恐縮ですが、ご入居者の皆様とは疑似家族と考えております。日々の他愛のない喜びや悲しみを本当の意味で共感できるよう努めておりますが、その形に正解はないと思います。及ばずですが認知症を罹患されているご本人とご家族の懸け橋になるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はさせて頂いておりますが、比較的来訪者が多いと思います。地域密着の良いところでもある馴染みの人との再会の場所でもあります。	利用者は地元の人が多く馴染みの人や同級生もいて玄関先や電話でやり取りをして再会の場となっている。家族の面会は制限しているが多くの訪問があり、写真・本・食料や人形を持って来る人もいます。家族から電話時には利用者とお話し、年賀状が来て居室に飾っている。リビングでは昭和メトロのDVDやアイパッドにYouTube流して職員と一緒に見て回想し話が盛り上がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の皆様の個性を把握に努め、尊重しております。もちろん認知症の特性上、トラブルがないわけではありません。常に職員が間に入りコミュニケーションを図れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養へ住み替えをされたご利用者やご家族に声をかけさせていただく機会も多々あります。必要に応じて相談体制及びフォローに関して不安のないよう努めております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の希望に沿った暮らしが提供できるよう努めております。聞き取りが困難な場合はご家族の意向、職員間で何がご本人にとって1番かを検討しております。	入居時に生活歴・嗜好・希望等をフェイスシートに記録し、入所後はケース記録や生活身体栄養状況記録に記入し、申し送りやユニット会議で情報共有して検討している。利用者の趣味等を理解して話をし、さりげない言葉から本音を理解し、選択肢を示して決定してもらい、伝えられない人は表情を見て思いを汲み取っている。また、「嫌」の時は強要しないで時間を空けて再トライをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時に生活歴、生活環境、家族構成、関係、背景についてお聞きし、当ホームでの生活を快適に過ごしていただけるよう努めております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズム、健康状態、残存能力の把握に努め、日々変化する状況に円滑に対応できるよう努めております。また朝夕の申し送り、毎月のユニット会議で情報の共有をし支援に反映しております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議での議題に上げチームで検討します。居室担当を中心に話し合い、必要時はご本人、ご家族への相談、提案しリアルタイムに反映できるように努めております。	ユニット会議のケアカンファでは利用者一人ひとりの課題について担当職員の意見を基に話し合っている。また、ケース記録を基に月間報告書を作成して月間のモニタリングとして行われている。計画作成担当者は職員から話を聞いて6か月毎にモニタリング行って評価している。医療ファイルに受診状況を記録し、状態変化時の状況により家族に報告をしてケアプランの見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各帳票(状態記録、医療記録、ケース記録)及びCMの記録を基本に本人、ご家族への相談、提案、課題分析やモニタリング、必要に応じて計画の変更をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで同様、併設のデイサービスとの連携、隣接の特養、デイサービス、居宅介護支援事業所、ショートステイ、サ高住、小規模多機能型居宅介護との連絡を取り合い、様々な観点から支援できるよう継続していきます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	計画されていた企画はコロナ禍で中止となり、積極的な交流の場を提供できなかった。更なる地域資源の把握と実現可能な計画を立案できるように努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はもちろん、その他の医療機関の医師やワーカーとの良好な関係作りに努めております。	家族希望によりかかりつけ医の受診は家族が同行し、ホームに帰ると担当職員は家族から情報を聞き、家族の同行が難しくなるとホームで対応している。提携医療機関から週1回の往診と特養の看護師による健康管理と相談が行われているが、3月から看護師が常駐する事となり職員は安心となっている。発熱時にはバイタルをして主治医に連絡をして対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特養の看護師にご入居者の健康管理、都度の相談、指示をお願いしております。次年度より直接雇用で看護師を1名配置予定であり、グループホームにより密着した形で看護の提供をさせていただきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院、その他の病院のワーカーとの関係は良好であり、情報共有、相談ができる体制が整っています。今後も継続していけるように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療依存度が高くなってきて当ホームでの支援が困難となってきた場合、今後の方向性や要望を施設とご家族で話し合いを行います。療養病棟や隣接の特養への住み替えが多くなっています。また課題として看取りができる体制や環境の構築が次のステップと考えております。	契約時に重度化・終末期の方針と延命措置の確認や看取りはしない事を説明している。来期には医療連携加算を取得し看取りの体制を構築して家族の希望を叶える看取りの検討をしている。家族とは「どの段階でどうするか等」について話し合い、食事が取れない等終末期には主治医の意見を聞き延命措置の確認をして入院か特養への住み替えとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時は看護師、管理者、ユニットリーダーへ連絡し指示を仰ぐ体制となっております。応急手当、処置に関して全ての職員ではないが概ねの職員が知識や技術を身に付けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練を実施しており、会議や研修も定期的開催されております。連絡網だけでなくモバイルを活用した連絡体制の構築、備蓄品はホールに3日分を用意しております。	防災訓練は実施計画通報書を作成して年3回日中・夜間を想定して隣接特養と連携して行なわれている。訓練実施計画書に基づいて職員の担当を決め「火災発生・通報・消火・避難訓練」と通報装置と連動した防災連絡システムの運用等により実施されている。実施後には参加者による感想と反省点を周知している。	BCP計画は法人や事業所毎に作成されているが、グループホームとしては作成が出来ていないため、法人や消防署の研修に参加して作成する事としている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の個性を尊重し、言葉使いや接遇には十分注意しながら対応するよう職員間で注意喚起しながら行っております。	職員には尊厳の定義を説明し、利用者の意思を尊重して利用者一人ひとりに合わせた対応が行われている。また、管理者は職員が勘違いしている面や職員同士云えない事もあり確認をしてその都度注意喚起をしている。業務優先でなく利用者を優先し、利用者の行動や希望を妨げない様にしたら出来るかを考えている。居室・トイレ・浴室では羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思決定や意向が尊重できるよう、コミュニケーションを図り実現にできるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先というよりは、ご利用者の時間の流れを把握し過ぎていただけないよう努めております。そういった意味では尊重できているかと思いません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1/2か月で訪問理美容に来ていただき、ほぼ皆様活用されています。楽しみにされている方もいらっしゃる、コロナ禍の中でも継続していけるよう努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できることをお願いし、セッティングや盛り付け等、後片付け、積極的に参加していただけるよう努めております。	利用者にテーブル拭きや片づけ、元調理師の人には下ごしらえ等出来る事をお願いをして役割となっている。食事は利用者一番の楽しみとして、食器は自分の物を用意し、主菜とご飯とみそ汁の温かい物を提供している。誕生日にはケーキでお祝いをし、季節の行事に合わせて敬老会ではお茶とお菓子、クリスマスには豪華な食事とケーキを食べて喜び、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成献立にてバランスの取れた食事を調理、提供させていただいております。残存能力を活用していただける支援に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをしていただいております。ご自身で口腔ケアが困難な方に関しては職員が介助をさせて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が基本となっており、夜間はご本人の状態に合わせてトイレ等を活用する場合があります。オムツに頼らず人間の生理的現象に対し、精神活動の低下に努めております。	排泄パターンを確認して定時に声掛けをしてトイレに誘導している。また、拒否のある時には間を置き人を替えて心配りしている。尿量に合ったパットの使用やパターンを把握して減らす工夫をし、失禁予防は失禁感覚をチェック表を見て検討し、パットの当て方も愛のある当て方の理解を深めている。水分摂取を心がけ、便秘時には医師に相談をして下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に努め、便秘気味のご利用者には週1回の往診で主治医に相談し、内服療法で対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節によりゆず湯や葛根湯、入浴剤にも変化をつけて入浴が楽しみの一つになっていただけるよう努めております。	利用者の体調や気分に合わせて週2回の入浴を支援している。拒否する人には無理をせず人を替え日をずらして心配りしている。ディサービスと協力をして車いすの人や浴槽をまたげない人は機械浴を使用している。季節にはゆず湯に入り、入浴剤を使用して変化を持たせ、全身のチェックをして痣等は写真を撮って記録し往診時に見せている。1:1の時間は会話は弾み入浴して気分が良くなり笑顔が見られ気持ちの良い声が出ている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆったりとした時間の流れの中、昼夜逆転にならない程度の睡眠の質と時間の管理に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルに沿って支援を行い、医務や主治医、薬局に相談、確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、調理準備、配膳、食器洗い、花の手入れ等、様々な役割を担っていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり頻度は極端に減少している現状です。ご家族との外出は感染状況により緩和しております。今春に施設での外出行事を予定しております。	天気の良い日は車いすの人も職員と一緒に散歩に出かけている。また、庭いじりの好きな人はプランターの花に水やりをし、畑ではトマトやキュウリを植えて収穫し、テラスでお茶を飲み気分転換と季節を感じている。また、家族と一緒に受診時や馴染みの床屋に行っている人もいる。コロナ禍で外出は自粛しているので、ドライブをして少人数での道の駅での買い物や外食、花見や鯉のぼりの見学等の再開が待たれます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍もあり外出の機会が減少したこともあり、買い物へ行くことが無くなりましたが、移動パン屋さん等来訪時はお財布を持って正面玄関口に並ばれております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいというご要望にはフロアにて職員が付き添い支援しております。またご家族からの手紙や電話もほぼ毎日あり、直接ご本人へおつなぎしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設より18年経過し老朽化していますが、ご利用者にくつろいでいただける空間づくりを心がけています。また来期大規模改修工事を考えております。	リビングは加湿器を入れて温度湿度管理や換気をし、毎日掃除と消毒をして清潔な共有空間となっている。季節毎に桜やヒマワリの折り紙を大きな用紙に貼り絵をし、クリスマスツリー等を制作して飾り付けをして季節を感じている。朝にはDVDを見て体操や廊下を歩いて体を動かし、テーブルゲームのカード遊び等を行い、職員は生活歴等を知って話題を出し昔の歌手の話で盛り上がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記同様、設備面でのご不便をおかけする場面が増加してきております。明るい空間、やさしい時間を過ごしていただけるよう整備を予定しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火器の伴うものはご遠慮いただいておりますが、馴染みのある家具等をお持ちいただき安心していただくようしております。	新しい入居者には持参品リストにより説明し、家族の意向により以前住んでいた居室づくりの工夫をしている。馴染みの洋服ダンス・棚・テーブル・椅子を持ち込み、家族の写真や自分の作品・誕生日の似顔絵を飾っている。居室は温度管理や本人が使いやすいように整理をし、テレビの配線とベッドの位置を考えて導線が確保されている。夜間の巡回ではトイレに誘い安否確認と安心安全の見守りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や自室が分かりやすくなるよう案内や表札を活用しております。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	ご利用者を思う個々の介護観が著しく違った方向に向いてしまっている場面がみられる。	個人の思いを尊重した修正をチームで行う	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議にて状況を共有 ・個人面談にて背景を把握する ・チームでその都度声をかけていく ・本人が納得するまで協議する ・人事異動、ユニット内異動の検討 	12ヶ月
2	33	看取りに対して消極的であり『居心地の良い家』の理念とかけ離れてしまっている現状。	『居心地の良い家』とは何かをチームで話し合い、時代や環境を踏まえ、改めて理念に対して各自向き合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職の採用、業務委託による訪問看護の活用。 ・チームとして人の終末期に正面から向き合い、チーム、個々の経験及び実績、成長を図る。 	12ヶ月
3	52	開設より18年経過しており、様々な場面でご入居者へ不便をさせてしまっている。	ゆっくりした時間、優しい環境を提供できるように優先順位を定めて課題を解決していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・大小修繕個所のピックアップ及び優先順位の選定 ・大規模改修の計画及び管理 	24ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。